2007年

美麻HP本格運用

美麻地域づくり会議の広報部会はこのほど、地域の魅力発信や情報交換を目的としたホームページ「（仮称）美麻Ｗｉｋｉ」の運用を始めた。旧美麻村のページが好評だったことから、「別の形で引き継げないか」と計画。誰でも更新可能という特徴から、「地域の皆でつくるホームページに」と期待が高まっている。

（2007.1.13）

練習の成果競う

美麻地区スキー大会

美麻地区スキー大会（美麻公民館、美麻体育連絡委員会主催）は4日、大町スキー場で開かれた。旧村時代から30年以上続く恒例の行事で、小学校1年生から最高齢70歳までの42人が参加して、日ごろの練習の成果を競った。

2地域居住の可能性探る

大町市は24日、二地域居住の促進に関する講演会を美麻総合福祉センターで開いた。市内外から50人余が参加して、都市と田舎をつなぐ居住形態の可能性を探った。

内閣府地域再生事業推進室の岩瀬忠篤参事官が「二地域居住の促進と地域コミュニティの再生」と題して講演した。

美麻地区では、平成8年から長期滞在の市民農園を開発。現在は大塩と二重の2カ所で全85戸の住居が建設されている。美麻支所によると、平成元年以降は移住者が増えており、現在は旧村部人口の約25％を移住者が占めているという。

（2007.3.）

「麻の館」再スタート

地域づくり振興会が運営

大町市美麻新行の、麻の歴史資料の展示と特産のそばを提供する「麻の館」は4月1日から、これまでの美麻商工会から地域住民による新行地域づくり振興会（竹折敬喜会長）が新たに指定管理者となり再スタートする。

（2007.3.31）

姉妹都市交流新市でも

旧美麻村時代から続く大町市の姉妹都市米国カリフォルニア州メンドシーノ訪問団が5日から7日間の日程で、大町市に滞在している。旧村から引き継がれた交流だが、新市発足後の訪問は初めて。7日には美麻の重要文化財・旧中村家で書の催しに参加し、日本文化に親しんだ。

（2007.7.8）

道の駅でよっとくれフェア

道の駅ぽかぽかランド美麻で12日、「夏の美麻いーとこ！よっとくれフェア」が開かれた。

同地区の住民で作る美麻地域づくり会議が、特産品の需要拡大や道の駅の利用促進をねらいに企画した。魚のつかみ取りや地元野菜の販売など多彩な催しでにぎわった。

フェアは、県の「元気づくり支援金」を受けて、5月の連休に続いて2回目の開催。10月には、3回目が企画されている。

（2007.8.16）

美麻で初 ロードレース

全日本学生大会熱い走り

「全日本学生自転車ロードレースシリーズ第7戦」（日本学生自転車競技連盟主催）が20日、大町市美麻地区内をコースに開かれた。好条件が整っていると愛好家の注目を集める美麻で初の大規模大会。全国12大学の125選手やプロチームなども参戦し、秋の美麻で頂上決戦を繰り広げた。

選手たちは雪化粧した北アルプスの山々や色づいた紅葉を横目に、激しい競り合いを展開。沿道の仲間たちや住民の応援も熱を帯びていた。

（2007.10.21）

文化祭活動成果を披露

美麻地区は初めて、場所をぽかぽかランド美遊に移しての開催。展示やメンコ、こまなどの昔ながらの遊びで交流する、地域子育てセミナーが行われた。村内で採れたヒマワリの種の重さ当てコンテストも実施した。

（2007.10.28）

地域づくりの拠点完成

地域づくり拠点完成
大町の美麻支所・公民館

「美麻支所・公民館」がこのほど完成した。旧美麻村役場（現美麻支所）の老朽化に伴い平成12年から検討を開始、財政難から着手が見送られてきたなかで、新市に引き継がれて念願の建設を実現した。支所と公民館機能を備えた新たな地域づくりの拠点に、関係者の期待が集まっている。

（2007.12.2）

2008年

美麻から地域づくり発信

美麻地域づくり会議（合津富吉会長）は26日、地域づくりシンポジウム「美麻発新」を美麻公民館で開いた。合併前から同地区とかかわってきた、合併問題や住民自治の専門家を招き、合併後の1地域からまちづくりのあり方を発信した。

北海道ニセコ町職員で国土交通省地域振興アドバイザーの片山健也氏がコーディネーターを務め、合併後の地域自治組織を踏まえたパネルディスカッションを行った。

江戸川大学の鈴木輝隆教授は、合併で住民に緊張感が出て同シンポにつながったと評価する一方で、地域での経済的な営みを生み出せていない点が課題とした。関西学院大学の小西砂千夫教授は「美麻・八坂地区の住民自治の取り組みが、市全体の地域づくりへの経験に生きるはず」と、市の地域づくりのモデルとなる様な情報発信の必要性を述べた。会場を訪れた牛越徹市長は「地域のことを自ら考えシンポを開いたのはありがたいこと。せっかくの地域自治組織、ここから他地区にないオリジナリティを発揮してもらいたい」と話した。

（2008.1.29）

美麻から地域づくり発信
自治組織がシンポジウム
大町市美麻地区の地域自治組織、美麻地域づくりの会議（合津富吉会長）は26日、「地域づくりシンポジウム「美麻発新」」を美麻公民館で開いた。合併前から同地区とかかわってきた、合併問題や住民自治の専門家を招き、合併後の「地域からまちづくりのあり方を発信した。北海道ニセコ町職員で国土交通省地域振興アドバイザーの片山健
美麻とかかわってきた専門家が並びパネルディスカッション

デマンド交通試行

大町市は4月1日から、大町市民バス「ふれあい号」のダイヤを改正する。（中略）

美麻コースは、これまでスクールバスと併用していた便を分離。旧3路線を、新行方面の境の宮線、大塩・二重方面の川手線の2路線に再編した。乗り継ぎを含め、大町市役所まで向かう便を1日最大3往復から5往復に増便し、利便性向上を図る。

合併時に行った住民アンケートや地域づくり委員会からの意見聴取などを通して、住民意見を反映した。白馬村のJR神城駅まで向かっていた青具線は廃止した。

（2008.3.30）

海を越え姉妹都市と芸術交流

大町市の姉妹都市・米国カリフォルニア州・メンドシーノで、同市美麻を中心にした中信地域のクラフト作家の作品を展示する「大町・MIA SAメンドシーノ・アート&クラフトショー」が31日まで開かれている。芸術がきっかけで姉妹都市交流の原点に返る、海を越えた交流だ。

メンドシーノは戦後、アートセンターを中心に芸術の町として発展した。「美麻」との交流は周辺地域にも知られ、会場には交流関係者や付近の作家が訪れ、日本の作家の作品に注目していた。

（2008.5.23）

メンドシーノ訪問団出発

美麻小中学校5・6年生26人を中心とした訪問団（団長＝牛越徹市長）は23日、米国に向けて旅立った。美麻小中学校で開いた出発式では、そろいの赤いパーカーに身を包んだ団員が多くの保護者やボランティアらに見送られ、「行ってきます」と元気な声を上げ、バスで成田空港へ向け出発した。

（2008.5.24）

太鼓披露交流深める

メンドシーノを訪問している美麻小児童を中心とした訪問団は無事に到着し、現地の実行委員や子どもたちと交流を深めている。現地での活動は随時、美麻地域づくり会議のホームページ美麻Wikiに掲載され、現地の様子が伝えられている。

大町 メンドシーノ訪問団
太鼓披露 交流深める
メンドシーノで太鼓を演奏する児童たち（訪問団提供）

25日に開かれた歓迎パーティーでは、今回初めて児童たちが太鼓の演奏を披露。サンフランシスコの和太鼓チームの協力で実現した。源流美麻太鼓の会出身の児童も多く、練習を重ねたそろった動きに、200人の来場者は総立ちで拍手を送った。

ホームページの掲載は今回初めての試み。現地で交流する児童らがインターネットを経由して写真や文章を掲載し、美麻の住民から返信が送られている。

（2008.5.29）

メンドシーノ帰国報告

大町市の牛越市長は2日、定例記者会見を市役所で開き、姉妹都市米国カリフォルニア州メンドシーノ訪問からの帰国報告などについて述べた。メンドシーノ側から小学校同士の友好提携が提案されたことを明らかにした。

友好提携案は、美麻小学校とメンドシーノ・グラマースクールとの結びつきを強め、より交流を深めようというもの。メンドシーノ側の交流実行委員会のマイク・エバンス代表から正式に提示された。

市は今後、学校や教育委員会と検討し、前向きに対応する方針を示した。高校生の相互留学の強化も提案された。今回は帰国に合わせ、現地の短期留学生も大町を訪れた。

（2008.6.3）

米国での交流展報告

海を越えたクラフト作家の芸術交流に取り組む、大町アート&クラフト交流プログラム推進の会（小田時男代表）は29日、米国で開催中の「第1回大町 MIASA メンドシーノ・アート&クラフトショー」の報告会を大町市上仲町の創舎わちがいで開いた。

地域作家らは小田代表の報告に関心を示し、商店街を活用した展示など、個性ある展覧会をまちづくりにつなげることに合意。今後は市内の視察など実施に向け準備を進める。

（2008.6.3）

課題引き継ぎ声市政に

美麻地域づくり委員会

平成20年度第1回大町市地域づくり委員会は24日、美麻支所で開いた。地域課題を調査、審議し、より良い地域づくりに向けて、住民の意向を市政に反映させる。

自治会の推薦者14人が委員に就任し、牛越徹市長から委嘱状が手渡された。委員の任期は2年。

（2008.6.26）

「子どもの安全」改善協議

大町市の「美麻地区子どもを守る地域連絡会」（津滝修身会長）は2日、美麻小中学校で開いた。学校、PTA、地域の住民が協力し、防犯や事故防止など子ども達の安全に取り組む。美麻地区では今年に入ってから、通学路付近でクマの出没やハチの巣などの情報が寄せられた。

（2008.7.5）

官民協力草刈りボラ

大町市美麻地区の建設業者8社でつくる「土尻会」と市の美麻関係職員らは5日、地区内の県道と市道の草刈りボランティア作業を実施した。旧村時代から続く、地域の道を整備する官民協働の奉仕作業に汗を流した。

各社からの16人や支所同地区出身の市職員、一般のボラ1人も含む40人が参加した。幹線市道など延べ約20㌔にわたり、道端の草などを刈り取った。

（2008.7.8）

滞在経験「懸け橋に」

大町市美麻で姉妹都市の米国メンドシーノとの交流に取り組む実行委員会（吉澤義夫実行委員長）と美麻メンドシーノ交流ボランティアネットワーク（前川浩一代表）は8日、今年度の訪問報告会を美麻公民館で開いた。地区住民ら約70人が訪れ、児童らの成長した様子を見守った。

（2008.7.12）

地域の『お宝』Tシャツに

大町市の美麻地域づくり会議は、「第1回お宝デザインコンテストTシャツ編」を開く。地域の「宝物」をデザイン化。Tシャツという独自の形で募集することで、地域の魅力を発掘する試みだ。

（2008.7.16）

今日から北ア背に展示

「第1回お宝デザインコンテストTシャツ編」は10日から地区内各地で展示する。16日までは、同地区青具藤地籍の棚田を会場とする。

今回は初開催ながら、約100点のデザインが届き、関係者は準備に追われている。中には地域の避難箇所などを記した「災害時支え合いマップ」をデザインしたものもあり、「面白いアイデアだ」と評判だった。

（2008.8.10）

Tシャツに〝地域への思い〟

住民らが地域の「宝」をデザインしたTシャツを、青具地区に広がる棚田で初めて展示している。荒廃した棚田の復興と地域の持つ財産を住民に考えてもらおうと図案のコンテストを開き、同市内外から、116作品が集まった。

（2008.8.12）

ぽかぽかランド美麻フェア

大町市の美麻地域づくり会議は10日、同地区の「道の駅ぽかぽかランド美麻」で「美麻いーとこよっとくれフェア」を開いた。屋台や特設プールでのマスの掴み取り大会が行われ、夏休みの親子連れでにぎわった。

（2008.8.14）

頂点目指し高原駆ける

国内の大学自転車競技会の最高峰レース、文部科学大臣杯第64回全日本大学対抗選手権（インカレ）自転車競技大会の最終日31日、大町市美麻地区の特設コースで開いた。

チームメイトや近隣住民の声援が飛び交う中、高原の風を受けて色とりどりのジャージと数百の銀輪が駆けた。

地域から多くのボランティ

アが参加し、大会を支えた。同連盟会長の佐々木一也大会長は「非常にいいコースで、ここで大会をさせていただくのは地元の協力があればこそ。ありがたい」と感謝の気持ちを述べた。

（2008.9.2）

大北4団体優良事例発表

北安曇地方事務所は25日、地域発元気づくり支援金を活用した初の優良事例発表会を大町合同庁舎で開いた。昨年度事業の中でモデル性や波及効果が高いとされる優良事業として、大北地域では4事業が選ばれ、それぞれが成果発表した。

同事業では19年度、県下で734事業・大北では49事業が選ばれ、そのうちもっとも優れたとされる知事表彰では県内各地ごとに選ばれ計10事業、優良事例は44事業が受賞した。大北ではテクノ安曇野高瀬プロジェクト（池田町）が知事表彰、大町市の伝承文化を守る会（大町市）、ＮＰＯ法人白馬の自然と花を育む会（白馬村）、美麻地域づくり会議（大町市）が優良事例として地方事務所長表彰を受賞した。

（2008.10.26）

美麻で「麻」の魅力紹介

職人ら集いサミット

全国の麻職人らが集う「信州麻サミット２００８」が25、26の両日、大町市美麻の道の駅美麻で開かれた。多くの地域住民や観光客らが訪れ講演会や座談会、体験コーナーや麻製品即売などそれぞれの取り組みや活動に興味を示し麻に対する意識を高めた。

（2008.10.28）

美麻の畳復元へ講演

地域づくり会議 職人招き小中で

美麻の畳復元へ講演

美麻地域づくり会議は24日、かつて柔道を創始した講道館が研究した柔道畳に使われていたという美麻産の麻を用い、柔道畳復元ワークショップを美麻小中学校で開いた。神奈川県の畳職人・植田昇さんが講演し、かつての特産品や美麻地域が持っていた位置づけを子どもたちに伝えた。

柔道畳は講道館創始者の嘉納治五郎が研究を重ね、激しい運動に耐え足さばきを生かすとして、丈夫な麻糸とカヤツリグサを表面としていた。畳の表面を縫う糸には美麻産の糸を使うことが産地指定で用いられ、特注品が届けられたという。地域づくり会議が「地域の宝」を再発見・再評価しようとする中で、植田さんの研究する畳との関係がつながった。

（2008.10.26）

2009年

手づくり太鼓贈り交流

メンドシーノとの交流を支援する、美麻メンドシーノボランティアネットワーク（前川浩一代表）はこのほど、(財)三井住友海上文化財団の「文化の国際交流活動」助成対象に選ばれた。訪問団に手作りの太鼓を贈り今後の交流を広げようという計画のユニークさが評価された。

昨年5月に美麻の子どもたちが訪米した際に、現地で初めて源流美麻太鼓の演奏を披露。大好評を博し、メンドシーノでも和太鼓チームが結成された。現地では、練習用の太鼓もないことから、手作りの太鼓を贈ろうと考えた。

同財団は、有意義な国際交流に取り組む民間団体への助成事業に取り組み、今年度は全国から51団体が応募し、12団体が選ばれた。

（2009.4.18）

メンドシーノと芸術交流

「大町ＭＩＡＳＡ／メンドシーノ国際交流アート&クラフトショー２００９」開催に向け、同推進の会は15日、大町市上仲町の創舎わちがいで会合を開いた。旧美麻村で芸術家から始まった交流を市全体に広げ、芸術の町として中心市街地を活性化する願いを込め、準備を進めている。

（2009.5.17）

記念Tシャツで歓迎を

メンドシーノ姉妹都市交流実行委員会（北沢伊・男実行委員長）は、２００９年訪問記念Ｔシャツの予約受付を開始した。訪問団にプレゼントするＴシャツを一般販売し、市民みんなで歓迎しようと呼びかけている。一般販売は、自主財源の確保と、全市への交流理解拡大をねらい一昨年から企画している。

（2009.6.13）

大町に米国作家交流へ

大町市内で開いている米国の姉妹都市と地元作家の芸術交流展「大町ＭＩＡＳＡ／メンドシーノ国際交流アート&クラフトショー２００９」で、米国カリフォルニア州メンドシーノ周辺のクラフト作家らは19日、市内に到着した。

メイン会場の塩の道博物館や市内各会場に展示された両国作家たちの作品に感激していた。

訪れた作家たちは、同展に出店している29人のうち9人。子どもたちの相互訪問交流に参加したメンバーや過去に美麻で個展を開いた作家なども含まれている。

メンドシーノアート&クラフト展

大町に米国作家 交流へ

太鼓づくり文化理解

メンドシーノ姉妹都市交流実行委員会の「ワークショップde国際交流」は4日、大町市おおしお市民農園でメンドシーノからの訪問団37人とホストファミリーなど約40人が参加して開いた。ボランティアと訪問団が協力して和太鼓6個を製作して日本の伝統文化理解を深めた。

地元美麻のクラフト作家によりキハダを張り合わせた直径約32㌢長さ約50㌢にくみ上げた円筒形の胴の両側に牛革を取り付けて長さ約20㍍のロープで締め上げておけ太鼓が完成。このうち2個には参加者が交流会記念のサインをした。

（2009.7.5）

姉妹学校提携へ協定案

米国メンドシーノから来日している訪問団37人は7日、牛越徹大町市長を表敬訪問し、市役所や市議会を見学した。美麻小中学校とメンドシーノK8スクールとの姉妹学校提携に向け、協定書案が訪問団に託された。

（2009.7.8）

お別れ会で友情確認

メンドシーノから来日していた相互交流の訪問団37人は9日早朝、美麻をたった。

お別れ会は前夜の8日夜、青具ふれあいセンターで開き、訪れた130人余の市民らと最後の夜に別れを惜しみ、友情を確認した。庭には焼きそばや綿菓子の出店も並び、日本の夏の夜祭りの気分を味わった。会場は訪問中に訪問団と触れ合ったホームステイを受け入れたホストファミリーや交流に携わった市民や市議、職員やボランティアなどでにぎわった。

ステージには、クラフト交流で市民と訪問団が一緒に製作した太鼓が並び、美麻源流太鼓の子どもチームが演奏を披露した。今後は船便で米国に送り、到着に合わせて指導員を派遣し、米国で発足した太鼓チームに演奏を指導する。

（2009.7.10）

道の駅活用へ改善提言

美麻地域づくり委市に意見書

大町市の美麻地域づくり委員会（宮沢雄一会長）は19日、同市役所を訪れ、道の駅「ぽかぽかランド美麻」の施設活用について、牛越徹市長に意見書を手渡した。

幅広い施設活用による利用促進を図るため、管理に関する条例の整備や運営方法の改善などを提案した。

同委員会によると、施設内「ぽかぽかランド美遊」（多目的広場）のうち、農産物販売所としで利用されている軒下部分や飲食施設などで、利用料金や規約が定められておらず、新たな参入や施設利用の公平性を保つため、利用環境の整備が必要という。

（2009.8.20）

本格ツアーレース盛況

今回の美麻サイクルロードは新制度の実業団レースJサイクルツアーの一戦として、本格的なロードレース大会としてにぎわいを見せた。沿道やゴール周辺ではチームメートや観客の声援が飛び交い、ペダルを踏む選手の心を後押ししていた。レースクイーンも登場し、華やかに競技のムードを盛り上げた。

美麻ケーブルテレビでは、インターネット回線を用い、全世界に向け生中継を初実施した企業や専門知識を持ったボランティアの協力で、7台のカメラとノートパソコンを接続し中継。白熱した模様を伝えた。

（2009.8.25）

麻文化継承しよう
大町美麻でサミット

麻文化の継承などを目指す「信州麻サミット2009」は24日、大町市美麻地区文化祭に合わせ、道の駅ぽかぽかランド美麻で開いた。麻加工ワークショップや、県内外の研究者や学校による事例発表が行われた。

麻加工ワークショップでは、かつて地域で麻の生産・加工に従事した、70から90代のお年寄りが繊維づくりの技術を披露した。

お年寄りの鮮やかな手さばきを目に体験した大塚歩夢君（10）は、「全体をきれいにはぎ取るのが難しい」と感想。来場者に教えた吉澤岑夫さん（71）＝美麻二重＝は「マニラ麻や化学繊維におされて衰退した地域の麻文化。もう一度注目してもらえたら」と話した。

（2009.10.27）